

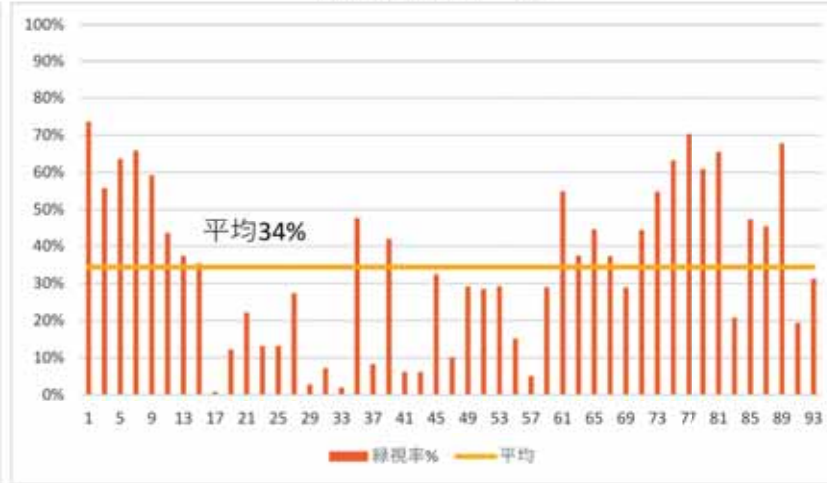
■緑視率

※緑視率：人の視野に占めるみどりの比率。国土交通省では「緑視率がおよそ25%を超えると、緑が多いと感じる人の割合が高くなる傾向がある。」としている。

《石神井公園コース》



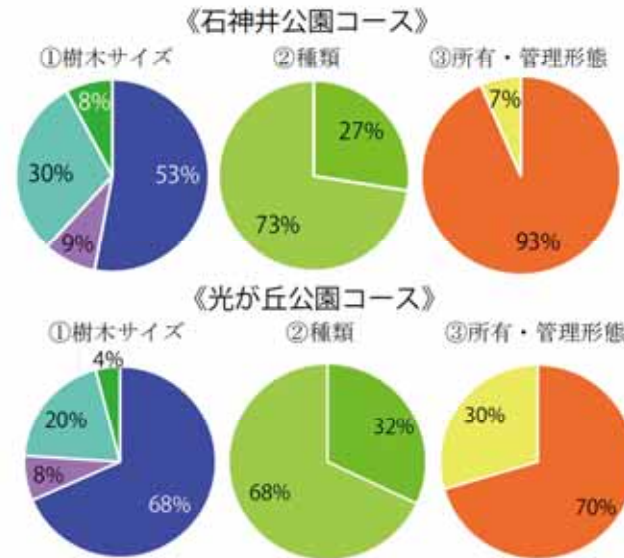
《光が丘公園コース》



■緑の質（緑の質の構成比率）

石神井公園コースは平均緑視率が51%、光が丘公園コースは平均緑視率が34%

- ①樹木サイズ
高木は、石神井公園コースが53%、光が丘公園コースが68%と光が丘公園コースの方が15ポイント高い。
- ②種類
落葉樹は、石神井公園コースが73%、光が丘公園コースが68%とほぼ均等な結果となった。
- ③所有・管理形態
街路樹は、石神井公園コースが93%、光が丘公園コースが70%と石神井公園コースの方が23ポイント高い。



《石神井公園コース・撮影ポイント》



《光が丘公園コース・撮影ポイント》



©2020年度 芝浦工業大学環境設計研究室 練馬班
教授：鈴木俊治、学部4年：田崎諒（主担当）、早坂拓真

■総括

【緑視率】

各コース撮影場所	緑視率
並木道・公園・神社参道・川の沿道など	緑視率が高い傾向にある
住宅街・上記箇所間の道など	緑視率が低い傾向にある
大通り・幹線道路など	緑視率の大小は一概にはいえない

【緑の質】

①樹木サイズ	<ul style="list-style-type: none"> 緑視率が高い傾向のある場所は、高木の構成比率が高い。 緑視率が低い傾向のある場所は、低木の構成比率が高い。
②種類	<ul style="list-style-type: none"> 緑視率が高い傾向のある場所は、落葉樹の構成比率が高い。 緑視率が低い傾向のある場所は、緑視率が高い傾向のある場所と比べて、落葉樹の構成比率が低い。
③所有・管理形態	<ul style="list-style-type: none"> 緑視率が高い傾向のある場所や大通りでは、街路樹の構成比率が高い。 住宅街は、街路樹の構成比率が低い。

【緑視率の調査方法概要】

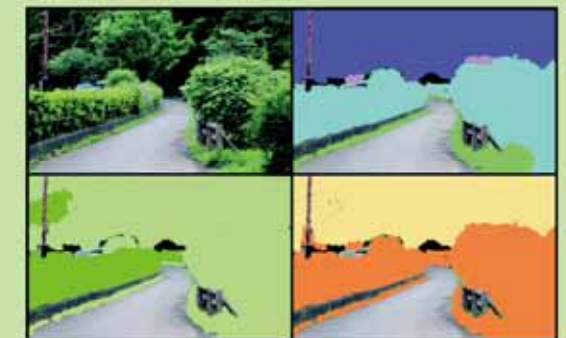
■調査方法

撮影方法	焦点距離 45mm、歩道の手前で撮影。 標準的な人の視線の高さにほぼ等しい1.5mの高さで撮影。
撮影日時	2020年7月27日(月) 14~18時半 2020年8月13日(木) 8~14時
分析方法	Adobe photoshopを使用し、撮影ピクセル数で面積を測定。
撮影箇所	撮影箇所として、左の図に示した撮影ポイントで撮影。 撮影間隔は約50m、今回の報告はそのうちから約100m間隔で撮影した写真を用いた。

■緑の質 分類・定義

	分類	定義
①樹木サイズ	高木	樹高が5m以上の樹木。
	中木	樹高が3m以上5m未満の樹木。
	低木	樹高が0.3m以上3m未満の樹木。
	地被	樹高が0.3m未満の樹木、地被・草本類、その他。
②種類	常緑樹	一年を通して、常に緑葉をつける樹木。
	落葉樹	秋から冬にかけてすべての葉が枯死して落ちる樹木。
③所有・管理形態	街路樹	街路や散歩道に沿って植えられた樹木、地被・草本類。
	その他	街路樹の定義以外の樹木、地被・草本類。

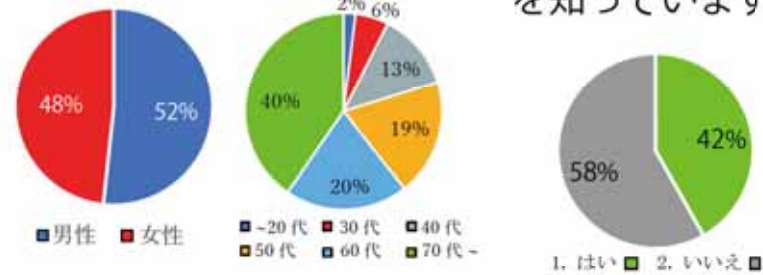
■緑の質 画像分析例・凡例



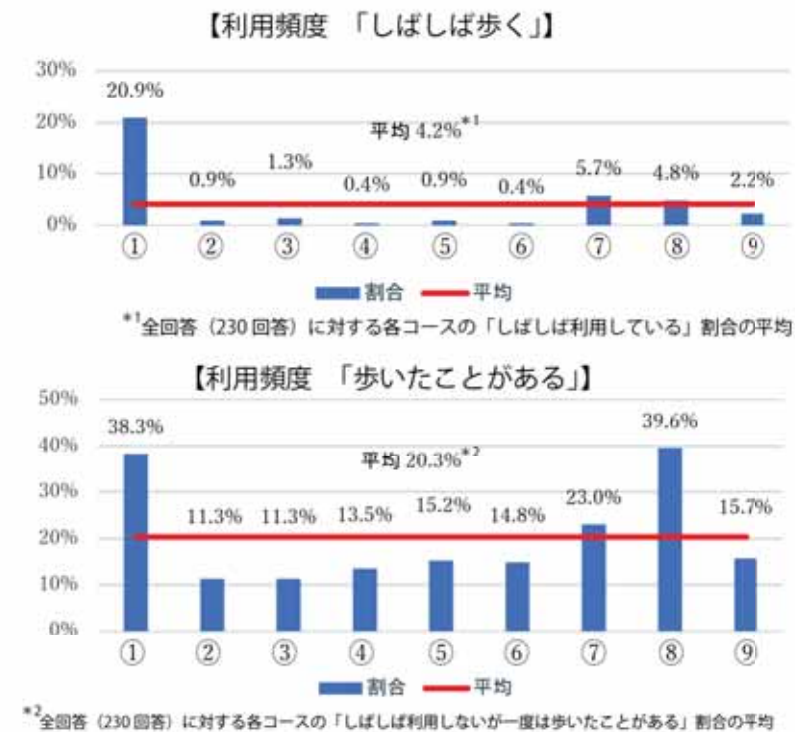
【凡例】

- ①樹木サイズ
高木 ■ 中木 ■ 低木 ■ 地被 ■
- ②種類
常緑樹 ■ 落葉樹 ■
- ③所有・管理形態
街路樹 ■ その他 ■

■回答者の属性 ■問 1-1 「ねりまの散歩道」を知っていますか？



■問 1-2 「ねりまの散歩道」の利用率



①石神井公園コースは「しばしば歩く」、「歩いたことがある」ともに平均を大きく超えたが、⑩光が丘公園コースは「しばしば歩く」が平均から0.6ポイント差と平均と差があまり出なかった。



「ねりまの散歩道」の各コースの利用率は、①石神井公園コースが約59%、⑩光が丘公園コースが約44%と、大規模の公園があるコースが平均の24.4%を大きく超えた。

- ①石神井公園コース
- ②武蔵関公園コース
- ③大泉井頭公園コース
- ④大泉中央公園コース
- ⑤清水山・稲荷山コース
- ⑥豊玉・高稲荷公園コース
- ⑦中村・向山庭園コース
- ⑧光が丘公園コース
- ⑨城北中央公園コース

■問 2、3 全体景観・緑景観の印象評価



※上記の写真は、緑視率や緑の質項目 (①季節感、②緑の管理、③視線・開放感) に差異が出るよう選んだものである。

■問 4 日常的に歩いてみたい道の条件



「緑の質」と「緑視率」に着目して比較した。
・緑の質として、「③季節感」、「④緑の管理」、「⑤視線・開放感」の各条件を設定した。以上の3つの条件は、それぞれ平均を約24、約3、約3ポイントずつ上回った。
・緑視率として、「①緑視率」を設定した。この条件は、平均を約14ポイント下回った。

以上より、「住民意識としては、緑視率(緑の量)よりも緑の質が重要視されている」と考えられる。

緑の質項目以外では、「⑦歩きやすい歩道、舗装とする」、「⑩自転車や自動車との競合を避け、安全に歩けるようにする」の2つの項目が重要視されている。

※全体景観: 特化することなく、全体を捉えた景観。
緑景観: 樹木や生垣など、緑に着目した景観。

【問 2 石神井公園コース 印象評価】



【問 3 光が丘公園コース 印象評価】



光が丘公園コースの方が石神井公園コースよりも、全体景観・緑景観ともに印象評価の平均が高い。

石神井公園コースと光が丘公園コースともに、全体景観の印象評価の平均よりも緑景観の印象評価の平均の方が高い。

石神井公園コースでは、写真4が全体景観・緑景観ともに印象評価が一番高く、写真5が全体景観・緑景観ともに印象評価が一番低い。

光が丘公園コースでは、写真1、2が全体景観・緑景観ともに印象評価が高く、写真3、4、6が全体景観・緑景観ともに印象評価が低い。

- ① 緑を多くする
- ② 緑の種類を多様にする
- ③ 緑により、季節の変化を楽しめるようにする
- ④ 緑の管理をより良くする
- ⑤ 歩行時に視線が通り、開放感や眺望があるようにする
- ⑥ 統一感のある並木道にする
- ⑦ 歩きやすい歩道、舗装とする
- ⑧ より広い歩行空間を確保する
- ⑨ ベンチなど休憩できる施設を設ける
- ⑩ 自転車や自動車との競合を避け、安全に歩けるようにする

【アンケート調査方法概要】

■調査協力団体

紙媒体	Google form
高野台5丁目 城南住宅組合 ねり歩きガイドの会	練馬区HP (掲載) 東京建築学会練馬支部まちづくり部会 光が丘図書館利用者の会 練馬植樹推進会

■調査方法

実施方法	紙媒体			Google form
	高野台5丁目	城南住宅組合	ねり歩きガイドの会	
地域の広報誌とともにアンケートを全戸にポストイング。 回収は同封した封筒 (切手添付) にて大学研究室宛郵送。	直接配布し、その場で回収	練馬区HPにて広報、リンク先からの回答・返信		
回答期間	2020年12月1日～12月15日	2020年11月31日～12月15日	2020年11月19日	2020年11月20日～12月31日
配布数	305部	168部	7部	-
回収数	126部	70部	7部	27回答
回収率	41%	42%	100%	-

■問 2、3 アンケート設問例



※アンケートの際は、「1. とても良い～5. 良くない」としたが、アンケート集計や評価の際は、「1. とても良い→5. 良くない→1」とポイント付けして行う。